

- 流行中の風疹は報告数が減少しましたが、24 週においても症例報告がありました。
- 感染性胃腸炎、水痘および A 群溶レン菌咽頭炎の報告が増加しました。
- 夏季に報告数が増加する、咽頭結膜熱、手足口病、ヘルパンギーナおよび流行性角結膜炎の報告数が高いレベルで推移しています。
- 咽頭結膜熱と手足口病は、今年の同時期と比べて高いレベルで推移しています。

1. 全数報告の感染症

- 一類感染症: 報告なし
- 二類感染症: **結核 7 例** 肺結核 3 例, 無症状病原体保有者 3 例, 結核性胸膜炎 1 例
 診断週 20 週と 23 週に無症状病原体保有者がそれぞれ 1 例追加
- 三類感染症: **腸管出血性大腸菌感染症 2 例**
- 四類感染症: **レジオネラ症 1 例**
- 五類感染症: **風しん 2 例** 35～39 歳:男性 1 例, 40～44 歳:男性 1 例
 診断週 23 週に 35～39 歳:女性 1 例追加

2. 全数報告感染症の週別および累積報告数

滋賀県内の医療機関において、感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断した医師は、保健所に報告することになっています。これらの報告のあった症例を診断された週毎に集計しています。

なお、期日以降に報告があった場合は、再集計し、掲載しています。

主な疾病を対象に各週の報告数および累積報告数を下の表に示しています。

分類	疾病名	滋賀県				全国	平成24年累計※	
		22週	23週	24週	累計	累計	県	全国
		5/26～	6/3～	6/10～	～6/16	～6/16		
二類	結核	3	10	7	132	11,288	254	28,951
三類	コレラ	0	0	0	0	1	0	3
	細菌性赤痢	0	0	0	0	60	0	241
	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	2	6	506	37	3,765
四類	パラチフス	0	0	0	0	32	0	24
	E型肝炎	0	0	0	0	61	0	119
	A型肝炎	0	0	0	0	76	1	158
	オウム病	0	0	0	0	6	0	8
	つつが虫病	0	0	0	0	100	1	436
	デング熱	0	0	0	0	72	2	221
	マラリア	0	0	0	0	18	2	73
	レジオネラ症	1	0	1	4	310	10	898
五類	アメーバ赤痢	0	0	0	1	462	13	931
	ウイルス性肝炎	0	0	0	0	118	4	235
	急性脳炎	0	0	0	3	192	3	361
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	1	78	2	183
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	0	0	2	100	3	243
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	7	688	9	1,427
	ジアルジア症	0	0	0	0	33	1	72
	侵襲性インフルエンザ菌感染症***	0	0	0	2	37	—	—
	侵襲性肺炎球菌感染症***	1	0	0	3	376	—	—
	梅毒	0	0	0	1	487	1	891
	破傷風	0	0	0	0	133	0	117
	風しん	9	7	2	73	10,822	12	2,391
	麻しん	0	0	0	0	145	1	285

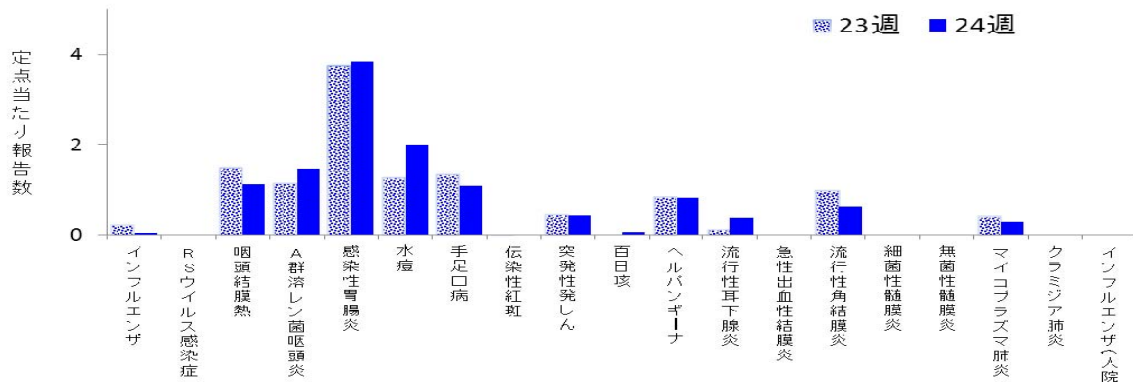
※ : 感染症発生動向調査事業年報暫定数(国立感染症研究所感染症疫学センター 平成25年3月現在)

※※ : 平成25年4月1日から対象感染症として追加

3. 定点把握の対象となる五類感染症の発生状況

- 報告数の多い感染症は、順に感染性胃腸炎、水痘、A群溶レン菌咽頭炎でした。
- 水痘(定点当たり報告数 2.00, 先週 1.28)、A群溶レン菌咽頭炎(定点当たり報告数 1.47, 先週 1.16)は先週と比べて増加しました。

定点把握の対象となる五類感染症の前週・今週の定点当たり報告数



警 報:咽頭結膜熱(警報開始基準値 3 終息基準値1) 高島保健所管内(定点当たり報告数 5.00)

4. 定点把握の対象となる五類感染症の保健所管内別の定点当たり報告数

感染症発生動向調査事業において、滋賀県が指定した定点医療機関(指定報告機関)から報告される感染症を定点把握対象感染症と呼びます。週単位(月曜日から日曜日)で報告される感染症について、滋賀県および管轄保健所別定点当たり報告数を下の表に示しています(定点当たり報告数=報告数/定点医療機関数)。

定点区分 (定点数)	疾病名	滋賀県		保健所別(24週 6/10~6/16)						
		23週	24週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
インフルエンザ (53)	インフルエンザ	0.23	0.04	0	0	0	0.13	0	0	0.33
小児科 (32)	RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	咽頭結膜熱(プール熱)	1.50	1.13	1.14	1.00	0.50	1.60	0.25	0.25	5.00
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.16	1.47	0.86	3.17	0.75	1.60	1.25	1.25	0.50
	感染性胃腸炎	3.75	3.84	2.57	2.50	2.50	6.00	6.25	5.00	2.50
	水痘	1.28	2.00	2.43	3.00	2.25	1.80	1.00	0.25	3.00
	手足口病	1.34	1.09	0.57	1.17	0	0.60	0.50	4.00	1.50
	伝染性紅斑(リンゴ病)	0.03	0	0	0	0	0	0	0	0
	突発性発しん	0.47	0.44	0.86	0.67	0	0.60	0	0.25	0
	百日咳	0	0.06	0	0	0	0	0	0.25	0.50
	ヘルパンギーナ	0.84	0.81	1.57	0.17	0	0.20	0.75	1.00	3.00
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.13	0.38	0.14	0.17	0	0.20	0.25	1.50	1.00
眼科 (8)	急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	1.00	0.63	0	2.00	2.00	1.00	0	0	0
基幹 (7)	細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	マイコプラズマ肺炎	0.43	0.29	0	0	0	0	0	2.00	0
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ(入院)※	0	0	0	0	0	0	0	0	0

*平成23年9月5日からインフルエンザ入院サーベイランスが開始されたことに伴い、基幹定点からの報告数(定点当たり報告数)を掲載

赤字: 警報レベルの基準値(開始基準値または終息基準値)を超過
紫字: 注意報レベルの基準値を超過

5. 風しんの発生状況

【発生動向】

- 第1週(2013年1月)からの累積報告数は73例となり、過去5年間で年間の累積報告数が最も多かった平成24年(12例)の5倍を超えています。
- **20~40歳代**が約8割を占めており、性別では**男性**が8割を占めています。
- 多くの症例は、**ワクチン接種歴が不明または未接種者**でした。
- 2013年1月以降、滋賀県では先天性風しん症候群の報告はありません(全国 累計6例)。
- 大阪府(2,432例)、京都府(188例)などの**近隣府県**においても多くの報告があります。

【コメント】

- 滋賀県内外では、第24週においても風しんが**流行状態**にあります。
- 流行シーズンであることにより、今後も症例は**増加する可能性**があります。
- 20~40歳代の男性にはワクチン未接種者が多いことが知られています。**妊娠予定の女性や配偶者等の同居家族**は、風しんワクチンの接種をお勧めします。

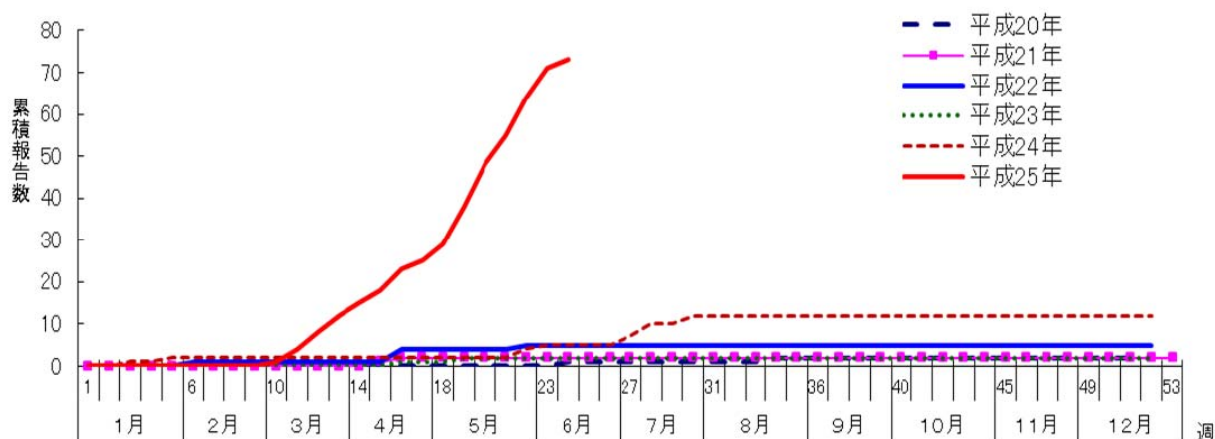


図1 年次別累積報告数(平成20年第1週～平成25年第24週)

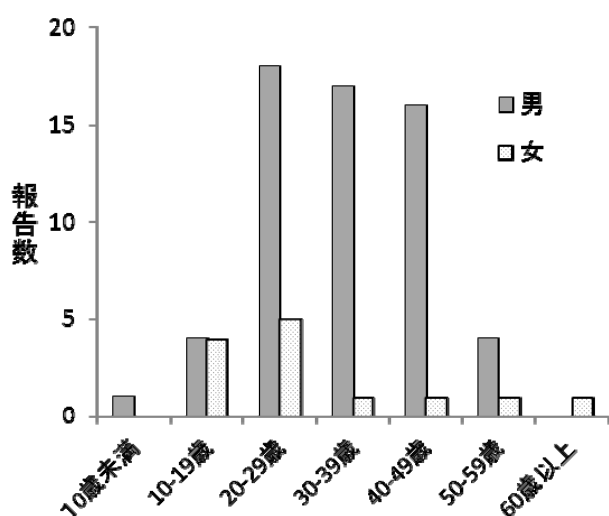


図2 年齢階級別・性別報告数
(平成25年第1～第24週, 73例)

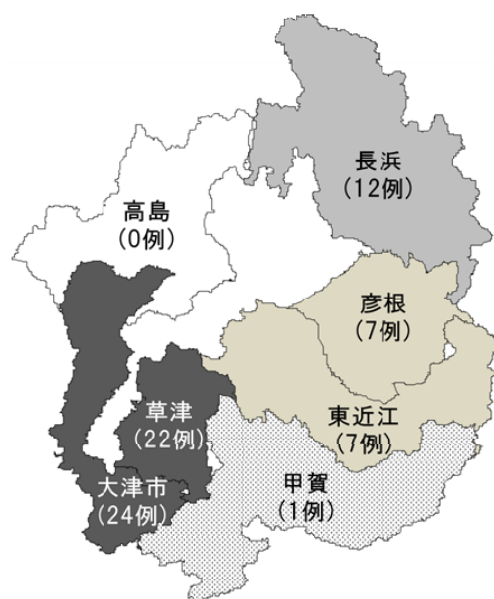
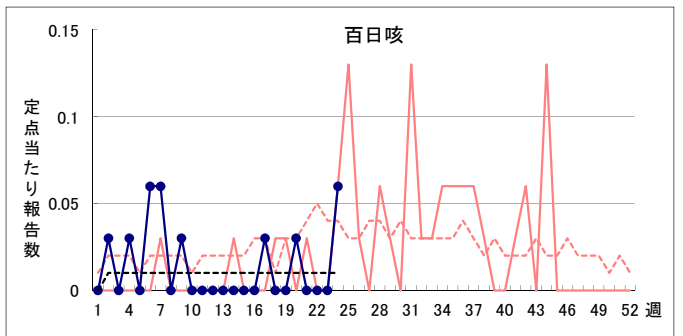
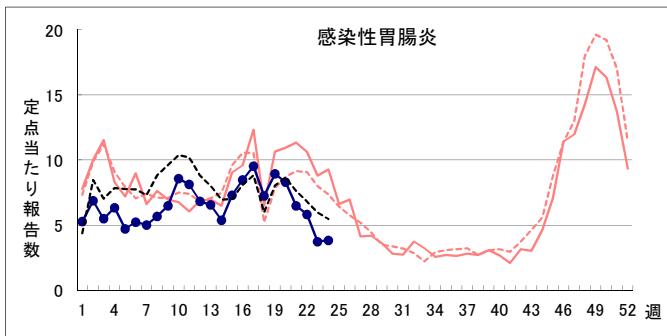
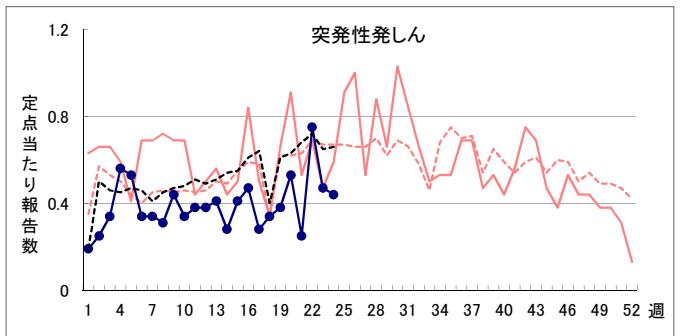
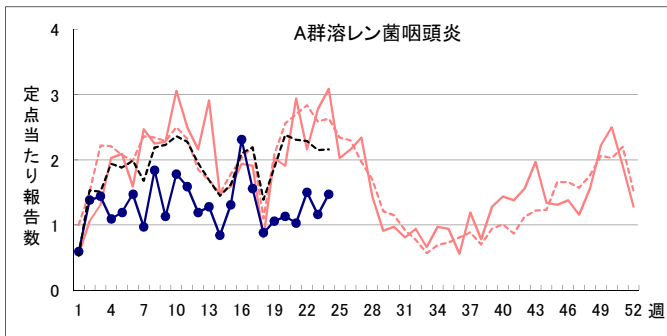
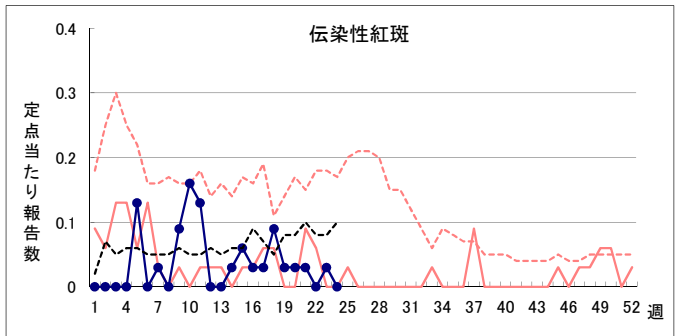
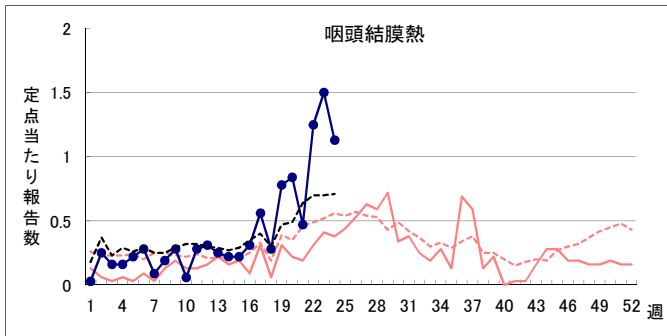
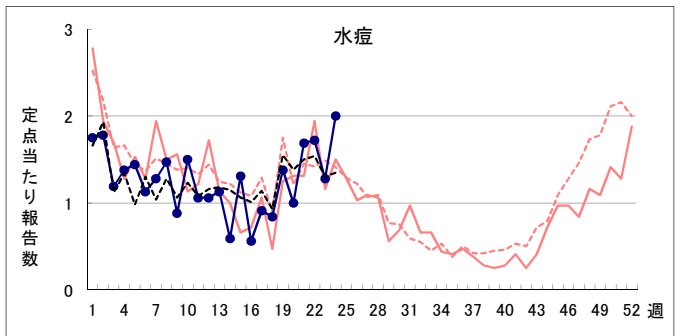
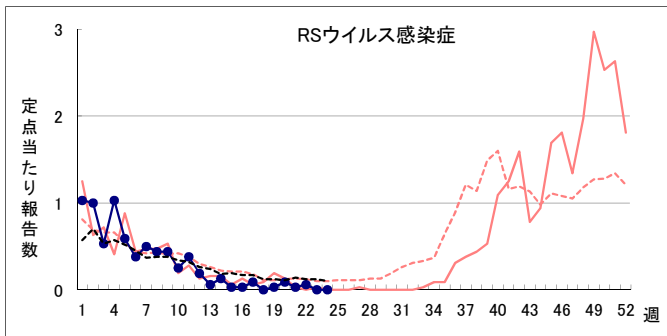
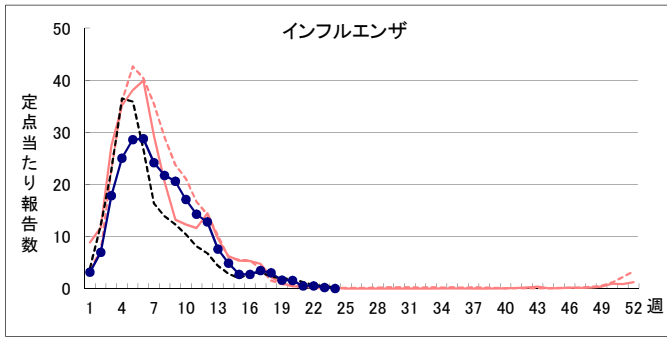


図3 保健所別報告数
(平成25年第1～第24週, 73例)

疾病別定点当たり報告数

平成25年第24週



疾病別定点当たり報告数

平成25年第24週

0

H24 [滋賀 ———— 全国] H25 [滋賀 ●——● 全国]

